

取組を振り返って

桜丘小では、協働型学校評価重点目標を「読書にふれ、心を豊かに育てよう～学年必読書を含めた読書賞をとる児童の割合を70%以上にする～」に定めている。元々本を読むことが好きな児童が多く、雨の日の図書室の貸し出しカウンターには長蛇の列ができるほどである。しかし、本校で定めている学年必読書の図書の貸し出し冊数はあまり多くなく、平成28年度は30冊以上で読書賞受賞は69%、必読書に関係なく読書している児童の80%以上が30冊以上であった。

今回、学校図書館運営モデル校として、児童の読書量の増加を目指した取組を行うことで、数値として結果の伸びは見られなかったが、児童が休み時間に図書室で過ごす姿や、図書室で授業を行っている様子から児童と教職員の中の図書に対する意識が、「もっと読みたい、もっと読ませたい」というように変化したように感じた。

●高学年向け図書の購入・移動書庫について

全20種類68冊の高学年向け図書を購入し、移動書庫に入れ、高学年全5学級に配置した。これまで委員会の仕事や行事などの準備で忙しく、図書室に足を運ぶことが難しかった児童にとっては、手軽に本を手にとることができるようになり充実した読書環境をつくることができたと考えられる。

●「図書デー」の実施について

図書委員会の児童からの提案で、毎年11月下旬に1週間行っている「図書まつり」に加え、毎月10日を「図書デー」とし、図書室により足を運んでもらえるようなイベントを開催した。図書まつりと違い、一度の開催が1日しかないことから、委員会で設定したテーマに沿った本を借りるとしおりを渡したり、委員おすすめの本を室内に掲示したりと様々な企画を用意したところ、大盛況であった。特に、「命や友達について考える」をテーマにした第2回図書デーでは、昼の校内放送で紹介された図書をはじめ、多くの児童が命や友達に関連する本を借り、読むことができた。

●多読賞・読書賞

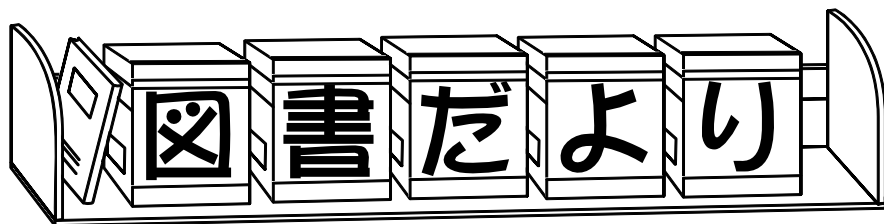
昨年度読書賞受賞の児童の割合が、目標である70%に届かなかった要因に、受賞条件の変更(30冊→35冊)や必読書の準備不足が挙げられたが、本を借りずに図書室内で読んでいたり、家から持ってきた本を読んでいたりする児童も多くみられるので、今後はそのような本の扱いや、必読書の児童への効果的な紹介について考えていきたい。

●読み聞かせ

本校では、毎週木曜日の朝に地域の方に図書ボランティアとして協力をいただいている。子どもたちは本の世界に惹き込まれるように真剣な表情で読み聞かせを聞くことができていた。また、教職員による読み聞かせでは、普段あまり交流することのない教職員による読み聞かせということもあり、新鮮な気持ちで、興味を持って聞いている児童の姿を見ることができた。

◆ 注目 POINT ◆

- 読書量が減少する高学年が読書に親しむための工夫や、図書館へ気軽に足を運べるイベントの開催などにより、全学年での偏りない読書活動推進を図っている。
- 地域ボランティアの協力や担任以外の教職員による読み聞かせの実施など、読書活動を通して普段接することのない人との交流を図っており、新たな交流という刺激を、読書活動への意欲・関心の更なる創出につなげている。



保護者版

平成 29年 5月 24日

まもなく運動会。学校では子供たちのわくわくした気持ちが伝わってきます。それでも、朝も、業間も、お昼も図書室は大にぎわいです。

桜丘小学校では、子供の読書の場を大切にしています。「朝から」図書室が開いている学校も、1回で「2冊の本」を借りられる学校も多くはありません。また、くつろぎの「ベンチ」がある学校もありません。

「親子読書の日」6月11日(日)

- ※ 時間は各家庭にお任せします。
- ※ 強制するものではありません。
- ※ ご家庭の都合の良い日に幅を広げて(2週目のいつかとか)も良いでしょう。

親子読書の日 三つのねがい

- 20分間はテレビを消して静かに読書
- 家の人みんなでゆったり読書
- 本を話題に親子の語り



今月の図書だよりは、本の紹介特集です。まずは、**図書事務の浅野さん**からしてもらいます。

《子供たちにオススメの本》

【いのちをいただく】(西日本新聞社)

文：内田美智子 絵：諸江和美

この本は、食べ物が満ちあふれている時代に生きる私たちに、食べ物のありがたみと大切さを教えてくれます。私たちの命が多くの命に支えられていることを子供たちは知っているのでしょうか。食肉加工センターで働く坂本さんのお話ですが、読んでいくうちに悲しみや苦しみが伝わってきて、自然と涙が溢れてきます。食べ物を粗末にしてはならないことは、当たり前のことであってほしいものです。この本を読んで「いただきます」、「ごちそうさま」を心を込めて感謝の気持ちで言える子供たちに育ててほしいと思います。一人でも多くの子供たちに手に取ってほしい感動の一冊です。

【書籍表紙写真】

桜小の「学校図書館」について

今回のおたよりでは、桜小の学校図書館がどんなふうに運営されているかをお知らせします。

- ① 開館時間 月～金曜日 登校時刻～下校時刻まで
- ② 一人二冊一週間限度 個人のバーコード付きカードを利用します。(予約制度もあります。)
- ③ 図書事務員(学校司書)と図書委員、学級担任がお世話します。
- ④ 火・木曜日 8:30～8:45 朝読書があります。
読み聞かせボランティアによる読み聞かせがあることもあります。
- ⑤ 学年別必読書を設定 国語の教科書に掲載されている図書を主に選書しています。
- ⑥ 読書賞(35冊以上) 多読賞(100冊以上)を授与(必読書5冊を含む)します。
- ⑦ 蔵書数 11,005冊 学校図書館図書標準の定める冊数(学級数による)を106.0%達成しています。
- ⑧ 市民図書館から年4回、各学級に1～2週間 40冊の貸し出しを
してもらっています。



今年度の課題図書も紹介します。

感想文コンクールのための本ですが、良書がそろっています。全部で12冊あるので、今回のおたよりでは、6冊紹介します。ぜひ読んでみてほしい本ばかりです。

〈低学年〉

○「ばあばは、だいじょうぶ 作；楠 章子」

大好きなばあばが、「忘れてしまう病気」になり変わってしまった。そして、冬の寒い日、ばあばがいなくなり、どうなってしまうのか・・・家族のつながりを描き出す感動のお話です。

○「なにがあってもずっといっしょ 作；くさの たき」

オレは犬のサスケ。大好きなサチコさんはニンゲンだけど、イヌのことばが分かる。ある日、サチコさんがオレをおいていなくなってしまった。なぜだ？サスケの成長にほっこりさせられます。

〈中学年〉

○「くろねこのどん 作；岡野かおる子」

えみちゃんが一人で留守番をしていると、こっそりやって来る小さなねこ。なかよくなりたいな……。えみちゃんと自由に生きるくろねこのふれあいに心が温まります。

○「空に向かってともだち宣言 作；茂木 ちあき」

ナーミンはミャンマーからの転校生だ。あいはすぐ仲良くなるが、給食の時に事件が！ナーミン一家が難民と知ったみんなはどうする？社会と偏見について考える物語です。

〈高学年〉

○「チキン 作；いとう みく」

面倒なことはさけていた主人公。でも、言いたいことをはっきり言う転校生との関わりを通して、クラスの仲間と共に成長していきます。高学年女子のリアルな世界にドキッとします。

○「ぼくたちのリアル 作；戸森 しろこ」

人気者×転校生×平凡なぼく＝デコボコなぼくら。ぼくたちは少しずつちがう。だから、支えあえる。三人の少年の忘れられない夏の友情物語です。

人來田小学校

【児童数：258人】

(H29. 5. 1 現在)

◆ 実施目標 ◆

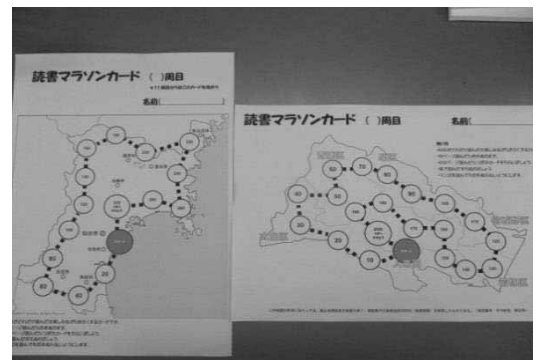
読書活動を通し、感受性を豊かにしたり、思いやりの気持ちを深めたりする

読書の課題

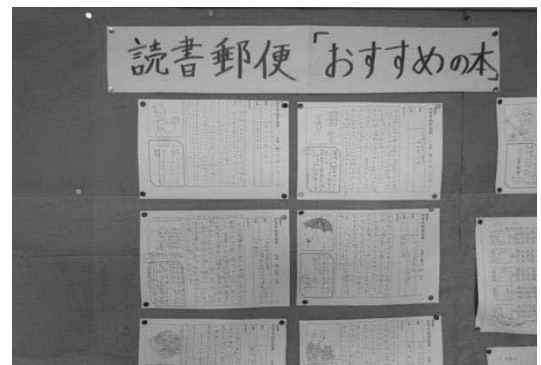
- 選書の改善
- 読書の習慣化
- 家族内での読書習慣の醸成

取組内容

- 協働型学校評価目標への読書活動の位置づけ
学期ごと作成する目標カードで各自のめあてを設定し、学期末に振り返りを実施。
- 家読書の日の設定
毎月23日を家読書の日とし、学校だよりや校内掲示などで周知するとともに、翌日には実施状況を調査し、結果についても学校だよりで紹介。
- 学年ごとの取組
＜「本の木」の掲示＞
読み聞かせした本の表紙を写真掲示。
＜「読書貯金と読書郵便」＞
読書した内容などを記録・発信。
- 国語教科書「本はともだち」の紹介本の自由閲覧
各学年の国語教科書の単元である「本はともだち」で紹介されている本を購入し、自由閲覧できるように各学年の廊下にワゴン型書架に入れて配置。



読書貯金



読書郵便



本の木



移動式書架の活用

●朝読書、読み聞かせ活動の実施

毎週火曜日に朝読書活動、木曜日に読み聞かせ活動を実施。読み聞かせは、地域の読み聞かせボランティアによる「ボランティア読み聞かせ」と、6年生が1年生に、5年生が2年生に読み聞かせを行う「学年読み聞かせ」の2種類。

取組の結果・効果

●協働型学校評価目標への読書活動の位置づけ

めあて設定・活動・振り返りサイクルの実施などにより読書活動に対する関心が高まり、学校評価アンケートにおける読書活動項目で児童、教職員とも肯定評価が8割以上となった。

●家読書の日の設定

学年全体の家読書実施率が40%から75%に増加した。

●学年ごとの取組

発達段階に即した取組となり、読み聞かせした本の写真など読書記録を視覚化して蓄積することで、読書活動を意識させることにつながった。

●国語教科書「本はともだち」の紹介本の自由閲覧

図書を各学年の廊下に配置することで、朝読書や休み時間などの読書活動につながった。

●朝読書、読み聞かせ活動の実施

読み聞かせを心待ちにする姿がみられた。高学年の児童は、読み聞かせをするために、自分たちで本を選んだり、練習を繰り返したりと聞き手である下学年の立場に立った行動が見られた。

取組を振り返って

●家読書の日を毎月設定し、保護者の意識も高める工夫をしたことで、読書活動が家庭の中で根付いてきている。

●夏季休業中の図書館の開館日を大幅に増やしたり、自由閲覧できる本を各学年の廊下に設置したりなど、本に触れる機会を増やしたことが児童の読書への関心を高めることにつながった。

●今年度は、各学年の教室前に学年文庫として本を設置し、児童が自由に本を手にとれるようにし、本をより身近に感じられる環境を整備していく。また、子どもたちが行きたくなる、本を読みたくなるような図書館の環境整備も図っていく。

●今後も読書の機会を増やし、読書意欲の喚起と習慣化に努め、自ら本に親しみ、読書を通じて自分の生活を豊かにしようとする子どもを育てていきたいと思う。

◆ 注目 POINT ◆

●児童が自身の読書に対する目標を設定する機会を設けることで、読書への興味関心や意欲を引き出している。

●学校全体で家読の日を設定し、周知及び実施の確認を行うことで、保護者に対する読書の意識づけを効果的に行っている。

●教科書で紹介されている図書を教室の近くに配架することで児童がタイムリーに図書を手にとれるようにし、読書習慣の確立につなげている。

◆ 実施目標 ◆

図書館運営に児童が積極的に関わる環境作りや授業支援、保護者への啓発活動を通して読書の習慣化を図り、読書の質の向上を目指す。

読書の課題

- 全体読書量は多いが、個人差が大きい。
- 軽読書の傾向があり、読書の質を高める工夫が必要である。
- 蔵書構成の見直しや選書の工夫などでアクティブ・ラーニングに対応できる授業支援を充実させること。

取組内容

- 児童が図書館運営に積極的に関わることができる環境の整備
 - ＜図書委員会活動活性化＞
児童による読み聞かせ会、図書館クイズ大会やビンゴ大会などの図書館行事の開催などによる図書紹介・来館したくなる図書館作り。
 - ＜選書会の実施＞
児童や保護者も購入図書選定に参加。
 - ＜テーマ展示＞
月ごとに設定したテーマに沿った図書情報の掲示や展示の実施。
掲示物を利用した図書クイズや、掲示物で遊べるような工夫をし、読書意欲を高め、さまざまな分野の図書を手にする機会を作る。
 - ＜読書目標を達成させる工夫＞
学期・年間の読書賞を設定。目標の達成のために、家読2倍貸出や冬休みマラソンカードなど読書量を増やす工夫も。
- 授業支援
 - ＜授業内容に関連する図書の貸出など＞
学習で活用する図書を教室で閲覧できるように、学年貸出の実施。
学習内容に関連する図書の展示・紹介や、教員に対するブックリストなどの提供による図書館活用型授業のサポートの実施。
 - ＜図書館活用型授業づくり＞
全学年で、国語の並行読書や発展読書、理科・社会・総合的な学習などにおける調べ学習に図書を活用。
- 保護者啓発と「家読」推進
 - ＜情報発信＞
月1～2回の図書館だより発行や、ブログを活用しての図書館情報及び図書の紹介を実施。また、図書館における児童の活動風景を発信。
 - ＜「家読」の推進＞
全校で「家読デー」を設定し保護者に周知するとともに、音読カード（児童が毎日提出する学習カード）に「家読」欄を設け、担任保護者の双方で「家読」の実施をチェック。
 - ＜保護者への学校図書館開放＞
長期休業日や授業参観日に学校図書館の開放・貸出を実施。
- 読み聞かせボランティア・地域との連携
 - 全学年、月1～2回、朝の読書タイムにボランティアによる読み聞かせを実施。年1回、学年毎のお楽しみお話し会を実施。地域の方の協力により、児童が選書・購入する文庫を設置。



図書館クイズ大会



廊下掲示：シルエットクイズ



授業参観：移動本屋さんへ行こう